

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和5年5月27日

学校法人 ひかりの子学園
認定こども園 ひかりの子幼稚園

1. 本園の教育目標

- キリスト教保育の理念に基づいて、子ども一人ひとり神さまから愛されているかけがえのない存在として捉えます。
- 共に生きることを通して、自分を愛し、他者を愛する子どもたちの自由で主体的な心と体の成長を見守り支えます。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に照らし合わせ、一人ひとりの幼児を大切にした質の高い教育の実践をするために、本年度「子どもの声を聴き、深めていく保育」を目指します。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

No.	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育の質の向上のために園内研修を充実させる	B	外部研修は今年度もオンラインが中心となったが、後半徐々に参加型の研修も機会が得られ体験研修・他園の公開保育など若手教員中心に積極的に参加し、教員全体で共有する機会を持った。園内ではキンダーカウンセリングの講師小林先生、兵庫教育大学の鈴木准教授、龍谷短期大学羽深了教授に研修を依頼、実施した。例年通り、交野教会牧師高陽先生より月1回聖書のお話を聞き、キリスト教の知識を深めるとともに保育の中で活かせる努力を行った。
2	学期ごとに各クラスの運営の成果と課題を報告する	B	昨年同様に、各学年の年、学期、月の予定目標を定め、毎月その様子を振り返り共有している。写真やエピソードを通して、活動のねらいや、子どもの成長をドキュメンテーションで保護者に発信することを継続。各学年、他クラスの様子も共有することが出来、教員同士のコミュニケーションのツールや刺激になっている。 今年度より取入れた自己目標におけるPDCAを一年通して実施、自分を客観的に振り返ることができ、目標管理と自己評価を体現した。このことを次年度の目標設定に活かし、学校運営、クラス運営の向上に役立てる。
3	各研修会や研究会に積極的に参加して職員に提供する	A	今年度も大阪私学幼稚園連盟の動画研修を活用し、教員が共通認識を持つことが出来た。個々のキャリアアップ形成において、今後は個別役割や経験年数により必須とされる研修のピックアップ、研修計画を充実させる事や研修記録など管理面も充実し保育の質の向上の為、園全体で研鑽を積んでいくようにする。
4	園だよりやクラスだよりを通し園内の情報を発信している	A	クラスの活動のねらいを情報発信するため、ドキュメンテーション型クラスだより（カラー印刷にて各家庭配布）、ひかりのこつうしん（園長通信）に加え、継続的にInstagram、Facebook、ホームページなどのICTツールを積極的に活用。交野市の広報にて募集した未就園児向けの「あそぼう会」も年8回開催し、園を知ってもらえる機会を増やし、その様子をInstagramでも紹介した。
5	保護者のニーズや把握に努め、要望などに適切に対応している	B	保護者との個人懇談会（対面に不安のある方・希望者はお電話）、クラス懇談会を保育室ではなくホールにてひとクラスずつ実施し、感染予防対策取りつつ実施することが出来た。その結果、幼稚園と家庭が協力関係を築くことができるよう行事などの取り組みを見直す機会にもなった。また学校評価アンケートを実施し、集計結果を保護者に公開した。園の保育理念や取り組み、財務情報についてもホームページにて情報開示するよう取り組んだ。その結果、保護者の思いや要望など知ることができ、保護者と園の繋がりを深める機会となった。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	<p>評価項目について、今年度も教職員全体で真摯に向き合い取り組んでまいりました。保育の質の向上に向けて、個々に目標を持ち毎月 PDCA を用いて目標管理を徹底しました。今後も、継続的に教職員が個々に研鑽を積み上げ（園内外での研修を含む）、学年末には各クラスの主体的な取り組み事例を発表、共有し、刺激を受けあい、次年度に担任が希望を持って歩みだせるよう期待します。</p> <p>令和4年度夏休みには、園庭の改修工事（乳幼児用遊具の充実・大型遊具の入替により安全性の確保）、管理棟1階職員室の改装（5S・業務の効率化の推進）管理棟2階「絵本の部屋」新設（倉庫作業場の移転）と大きな工事が数年続きその為、ご不便をおかけした反面、安全面や新たな保育環境の充実、教職員の職場環境の改善がはかられました。</p> <p>コロナ禍が続く中、インフルエンザも猛威を振るい、クラス閉鎖を余儀なくされる事態もありましたが、「異年齢交流」「体育参観」「クラス懇談」「お誕生日会」「ミニまつり」などは出来る限りの範囲で通常に近づく形を取りました。園から家庭への発信は毎月のクラスだより（ドキュメンテーション）やひかりのこつうしん、各種 IT を駆使した連絡報（シルフ・ブレイン）等タイムリーな連絡が出来るよう定着してきたと思います。今後はできる限り、ペーパーレスを目指し業務の効率化も図っていく所存です。</p>

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

5. 今後取り組む課題

No.	課題	具体的な取り組み方法
1	環境	<p>コロナ収束を迎え、3年間中止していたプール遊びの位置づけが検討課題となっている。今までプール遊びを行っていた3階は基本的には保育を行えず、3階のガス設備は都市ガスへの変更時に撤去した為、園庭で安全に行う方法を模索しているところである。</p>
2	安全管理	<p>月1回職員で園庭、遊具、保育室、廊下、階段、外周等点検場所を決めての安全点検を行い、その後危険箇所を共有し、すぐ改善できること、業者に依頼することを分類して対処している。今まで同様、高い遊具には必ず職員が見守るように職員間で共通理解をして、安全管理を引き続き行う。その日のけがは終礼で報告し、ケガノートに記入している。ケガノートの記入欄に「ケガが起こらないようにするための気づき」欄を設けることでヒヤリハットに繋げ、大きな事故に繋がらないように子ども達の安全を守っていきたい。また避難訓練は月1回行っている。バス取り残し防止装置が取り付けられる予定で、運転手、添乗、職員で使い方をマスターするが、それ以前に点呼、確認、清掃等の当たり前のことをきちんと遂行していききたい。</p>
3	保護者支援	<p>ひかりの子幼稚園でも保護者支援の必要性が高まってきている。SNS上で配慮に欠ける言葉でのやり取りがあったと報告を受けている。また保護者から保育に対する要望が寄せられ、保護者と話し合いの時を持ちつつ、受容できることと、できないことを精査し、保護者支援や相互理解に努めている。またごく少数ではあるが、親の無関心、ネグレクトが見受けられ、子どもは非常に不安定である。市とも連携し引き続き見守っていく。次年度は、配慮の必要な園児も複数名入園予定、在園の対象者を含め例年より多くの対応が必要となることが予測される。巡回、キンダーカウンセラーの小林先生と連携して、子どもが安心して通えるよう園児、保護者支援を行っていききたい。人選の上、「保護者支援、子育て支援」の研修を積極的に受け、園全体で共有を図りたい。</p>
4	異年齢交流	<p>年少組の給食のお手伝い、こりす組さくら組へのヘルプ、運動会活動の見合い、クリスマス会での予行見学など異年齢で育ちあうことを大切にしている。大きい子が小さい子のモデルになることは園では日常的な事であり、大きい子をあこがれ、小さい子を可愛がる気持ちが自然と育まれている。園庭やクラスで自然と助け合いながら交わり遊ぶ光景は、社会の縮図であると思う。これからも遊びを通して交流を続けていききたい。</p>

5	情報 発信	<p>クラスの様子は担任がクラスだより、ドキュメンテーション、インスタなど発信している。全体の行事は主にフリー職員がインスタを担当している。</p> <p>「ナースリー」「あそぼう会！」はいつも待機の方が出るほど人気であり、未就園児家庭の関心の高さが伺える。定員を増やし、できるだけ多くの家庭と出会いたいと願う。来年度の「あそぼう会！」を年間11回、ナースリーは32回を予定している。</p> <p>新来園者の多くはHP、インスタから園を知って下さる方が多いが、依然として保護者間の口コミから入園に繋がっていることも多い。2023年度の新入園予定は昨年度より15名減と厳しい状況であるが、交野市への転入の際、弊園への途中入園希望者が多いことが昨今の特徴である。園を知らない人に知っていただく事の大切さと共に、今かかわりのある子ども、保護者に園の理念を具現化していけば、おのずと人と人が繋がっていくことに多いに励まされ、丁寧に今を過ごしていきたいと思う。</p>
6	職員 研修	<p>国からの補助金である処遇改善費加算に、副主任保育士、専門リーダー、分野別リーダーの職位ごとに、15時間～60時間の研修要件が令和8年から必須になる。園では今までも各種研修を積み重ねてきたが、令和4年から8年までの間に、行政指導の運用改善フローに則り①乳児保育②幼児教育③食育、アレルギー対応④保健衛生・安全対策⑤保健衛生・安全対策⑥保護者支援・子育て支援⑦マネジメントの各分野の研修を積み上げていく予定にしている。特筆すべきはおおむね7年以上のキャリアがあり副主任相当の職員に対し、マネジメント研修を課していることである。現場の保育は若い職員が担っているのが現状で、結婚後産休、育休を経て現場に復帰するも、キャリアやスキルがあるにもかかわらずそれに応じたポストが少なく、復職後のそれぞれの目標が定めにくく、役割が不明瞭であった。この制度を利用して、ひかりの子幼稚園のキャリアパスチャートの作成に取り掛かっている。保育の質の向上、職員のやりがい、職員育成を目指し、それぞれの強みを生かした組織作り、個々の人間的成長を図っていくことを実践していきたい。</p>
7	仕事の 軽減化	<p>昨年度、教員一人1台のPCが支給されこともあり、月末の事務仕事がしやすくなり、計画的に仕事ができるようになった。しかし人によって仕事のやり方、時間のかけ方などが違い、残業時間にそれが顕著に表れている。8:15～17:45が定時、18:00を目途に遅くても18:30までに帰るように呼び掛けている。定時で帰る職員が約半数いるが、こども園最終終了が19:00頃なので、19:00まで残ることが常態化している職員もいて健康面が心配である。行事前、年度末は業務が多く、残業は仕方がないところもあるが、効率よく、計画的に放課後の仕事ができる工夫を模索し、職員の健康を守っていきたい。</p>

6.学校関係者の評価 個別のさまざまなご意見を一覧しております。(ひかりの子幼稚園=園と表記)

- 教育目標が「キリスト教の理念に則り」とある事、教職員がキリスト教の理念とは何かを深く認識することは、非常に大切であり素晴らしいと感じる。
- 人生における宗教の意味。イエスをはじめ多くの聖者が伝えようとした生き方を、具現化するのを考える、教職員・園であって欲しい。
- 新規入園者の増減についての記述があったが、一喜一憂することはない。園が努力する必要があるとすれば、保育理念の追求であり、保護者によって伝えられれば自然と園を必要とする人たちが集まってくると信じている。
- 教育の効果を短期的にチェックするのは不可能である。非認知能力の育成の大切さを語る上では、こどもたちが身に着けるようにしたいものの中で、数値化や可視化できないものを大切にするのなら、大人がそれを大切にしなければならない。エビデンスや数値による評価ではなく、園の創造性として表現されることが望む結果も得られるのでは。
- 専門家の指導や助言を受け、園の運営をよりよくしていく努力が十分になされている。
- 保護者への情報提供と親密な関係構築のために SNS と対面を上手に駆使している。
- 教職員の働きやすさと働きがいの両方に配慮した、具体的な方策がとられている。
- コロナ対策を徹底しながら、中長期的なビジョンをもって施設改修を進め、軸となる教育目標の実現のため、最大限の事をしてきたと思う。
- ますます繊細な配慮を要するこどもや保護者との向き合い方を真摯に模索している。従うべき規則も増えて複雑化し「自由保育」の担保と、教職員のワークライフバランスの確保を続けなければならない難しい状況下、誠実な課題設定をしている。
- 人生の基礎となる大変大事な時に想像（良いもの）として幼児ひとりひとりの人間形成時期、教育・生活の中に園の教育目標がとても大切。
- キリスト教の精神のすばらしさをどうしたら評価 A ランクになれるのか？
- 精神・身体ともに健全になるようこれからの取り組みは？
- 専門性が大事となる（職員の研修等含む）園のブランド力を上げていく事。
- 評価項目の評価 B の所がなぜ A の評価にならなかったのかを記述してもらえるとわかりやすい。
- 情報発信がどの学年も高評価になっているのは保護者がお手紙等、読みたいと思える、伝える工夫を色々された結果が顕著に表れ、評価になった。
- 報告書だけでは、意見が難しい。見て感じる事もあると思うので、見学等の機会があれば嬉しい。
- コロナ禍で行事などが減り残念でしたが今後、教育活動や交流が活発になることを願っている。
- 教会との境が変わって、園の様子が教会からわかりづらくなったことが、残念。
- コロナやインフルで行事などが制限される中、こどもたちの事を第一に考え今しかできない活動をこどもたちと一生懸命取り組んでいる。
- 各学年目標を定め、振り返り、全体共有をすることはお互い良い刺激になり次年度に活かせる。
- ブレイン「園児情報システム」の活用で、欠席連絡等が出来るようになった事はとても良い。
- ペーパーレスに関して、強く賛成する。
- 情報発信がタイムリーで、保護者も楽しみに待っている。
- 園が大切にしていること、こだわり、他園にはないもの、園のあたたかさなど。当たり前だと思っていた事（朝、園長が迎えてくれる。職員全員がひとりひとりの事を把握している。毎月のシールノートのコメント。教員と保護者の手づくり卒園アルバム。保育室の木のおもちゃ、廃材制作。こどもたちが帰った後のお部屋の雰囲気など）そういった園の魅力（想い）を発信して行って欲しい。

良い評価に対しては驕ることなく、ご指摘はしっかり教職員間で共有し研鑽を重ね、より良い評価が得られますよう努力して参ります。

総合的に A 評価となるよう、今一度、振り返り次年度に活かせればと考えます。

7.財務状況

監事監査及び公認会計士により、事業活動及び計算書類は適正に表示している主旨の監査報告を受領しています。